

主な内容		
同窓会長任期6年間を振り返って	浅野 一	(1)
平成30年度総会・懇親会のご案内		(2)
平成30年度通常総会 議案書	木原正義	(2)
第5回 キャリア講演会 報告	木原正義	(5)
目白だより 2018年度 大学入試合格者数	齋藤有子	(6)
目白だより 卒業式・謝恩会・入学式 報告	松本麻里子	(7)
第19回 獨協同窓会ドクターズクラブ 報告	伊藤公一	(7)
寄稿「吾が母、酒井アルマ」	酒井 府	(8)
寄稿「爆撃から護りぬいた我が独協」	大倉郁雄	(9)
卒寿を記念して3回目の文集を発行	黒沼昭夫	(9)
獨協ぶらり旅	柳原克忠	(10)
コラム・ドイツ ヨーロッパトラム巡り 最終回 Dresden	谷口有三	(11)
クラス会だより		(12)
私の近況 卒業ん十年		(15)
寄付金納入者一覧		(17)
物故者名簿		(17)
学園トピックス	柳原克忠	(18)
お知らせ「第3回 私の趣味・逸品展」作品募集		(19)
P T A より「獨協祭・バザー用品ご寄付のお願い」	佐久間寛道	(19)
協賛広告		(20)

<http://www.dokkyo-mejiro.com> 



題字・天野貞祐

第90号

平成30年5月15日発行

発行所 〒112-0014 東京都文京区関口3-8-1

TEL / FAX 03(3946)6352(直通)

獨協同窓会 発行責任者 浅野 一

編集責任者 柳原克忠

同窓会長任期6年間を振り返って

会長 浅野 一

平成24年6月の同窓会総会にて会長という同窓会の取りまとめ役のご指名を受け、選任されてから2期6年が経過致しました。

「少しでも多くの卒業生が同窓会の縁で、楽しいことが増えた」と、感じてもらえるように汗をかいてみよう！また、今の現役生徒達にも、より良い環境で心の成長著しい大切な時期を過ごしてもらいたいと願い、母校への後援を続けるべく、任期がスタートしました。

同窓会の活性化のためにも、多くの方々の力の結集が重要ではないかと考え、同窓会運営のお役目を幅広い年代の方々にも、お願いすることができました。

会報とホームページを活用した広報事業、財政基盤の拡充など、前執行部からの継続したテーマにも新たな視点からの検討を加え、実行に移すことができました。これも会務のお役目を引き受けて頂いた委員の方々の汗の結晶だと感謝しております。

同窓会の会合で母数が最大なのは、毎年6月に開催される総会であります、対象年次に幅が有り過ぎるのか出席率が低調です。一方、会報でご覧頂けますように卒業年次・クラスごとの会合が数多く開催されています。更には、還暦・古稀など人生の節目の同窓会が盛大に開催されていることもあります。会報での報告記事の評判も上々です。

今年で第19回を迎えた「獨協同窓会ドクターズクラブ」と第7回の「歯科医師獨協会」も、各々学術講

演会が持ち回りで開催され、意義ある職種同窓会として回を重ねるごとにその継がより太さを増しております。更に、薬剤師の会も加わり「医療系三師会」の会合開催へと発展しております。

平成25年10月22日の学校法人獨協学園130周年式典・講演・

祝賀会に獨協学園の原点である目白の獨協中学高等学校同窓会会長として参加できましたことも感慨深いものとなりました。改めて「獨協」の歴史を振り返ることになりました。獨逸学協会学校専修科第一回卒業生13名（明治21年）及び、中学の第一回卒業生4名（明治25年）に始まる獨協史を学び直すことが出来ました。卒業生が司法・医学に多くの人材を輩出し国づくりに貢献したこと、さらに社会の要請に応えるべく大学・医大など幅広い学術充実が図られ、これからも日本の将来に、また国際的にも活躍できる人材を輩出することが期待されています。

創立120周年を記念して発足した、経済的事情で就学が困難な生徒を支援する為の「獨協中学・高等学



校奨学金」を更に充実させる為に、平成 25 年の 130 周年事業として母校からの寄付金協力要請に応え、後援会・PTA 共々実行することとなり、奨学金寄付として 1 千万円を同窓会の運用財産から支出しました。加えてこれを機に、将来的な同窓会の財務拡充施策にも繋がる「財務拡充寄付」を平成 25 年からスタートし、お陰さまで、本年 3 月までの 5 年間で、延べ 440 名以上の方々から 950 万円を超えるご寄付を頂戴することができました。心より感謝申し上げる次第です。

通常の事業収支に関しましては、同窓会費納入方法の選択肢を広げたり、寄付金収入の定着化に努めました。また、支出項目ごとの改善策にも取り組みました。その結果、就任当初、総額 45 百万円であった基本金と積立金の合計額が、平成 30 年 3 月決算時には 60 百万円を超えることになりました。まだ道半ばでありますですが財務体質改善の方向づけが出来つつあると思っています。ご理解・ご協力頂きました同窓会員のみなさまに御礼を申し上げまして 6 年間のご報告と致します。

平成30年度 総会・講演会・懇親会のご案内

開催日時：平成 30 年 6 月 16 日（土）

場所・時間：総会会場：獨協中学・高等学校 小講堂

受付開始：午後 4 時 00 分

開会：午後 4 時 30 分

懇親会会場：椿山荘・ギャラクシー

受付開始：午後 6 時 00 分

開会：午後 6 時 30 分

懇親会費：会場受付でお支払い下さい

<会費>

昭和 36 年以前の卒業生 ご招待

昭和 37 年～平成 25 年の卒業生 … 5,000 円

平成 26 年～平成 29 年の卒業生 … 2,000 円

平成 30 年の卒業生 ご招待

同伴者 3,000 円

 なお、午後 7 時より卒業生で世界的なチェリスト 管野博文さんのチェロの演奏と里村淳さんのピアノ伴奏をお楽しみ下さい

総会特別講演会



【講演】：胃癌とピロリ菌感染

講師：二神生爾（昭和 42 年卒）

日本医大 消化器内科 教授

日本医大 武藏小杉病院 消化器内科部長

内視鏡センター長

会場：獨協中学・高等学校 小講堂

開催日：平成 30 年 6 月 16 日（土）

受付開始：午後 2 時 40 分

開会：午後 3 時 00 分

日本人の胃癌死亡者数は依然として多く、その大きな原因がピロリ菌感染にあることが知られています。しかし、除菌療法が奏功しない場合や、高齢者に対してどこまで治療を行うべきか、一体いつまで内視鏡検査でフォローしたらいいのかなど、判断に迷うことが多いかと思います。こうした問題を含め、ピロリ菌の ABC を平易にまとめています。

平成30年度 通常総会 議案書

開催日：平成 30 年 6 月 16 日（土）

《総会付議事項》

第 1 号議案：平成 29 年度事業報告の件

第 2 号議案：平成 29 年度収支決算の件

第 3 号議案：会長及び監事選出の件

第 4 号議案：副会長及び幹事長承認の件

第 5 号議案：平成 30 年度事業計画案の件

第 6 号議案：平成 30 年度収支予算案の件

第 1 号議案：平成 29 年度事業報告の件

浅野会長最後の年にあたり、会長就任後 5 年間を振り返るとともに、次期執行部の体制作りに務めた。平成 29 年度事業計画に則り、総務委員会を中心にして各種委員会での協議事項を再検討し、常任幹事会、幹事会にて協議、議決するシステムが定着し、スムーズに事業を施行することが出来た。

① 同窓会組織の活性化と継続性維持のため役員（常任幹事、

幹事）の役割を見直し、実働できる新しい執行役員を積極的に増やしていくことを目標に会則の一部と関連規則の変更を行った。これにより、幹事は各卒業年次ごとに会員の推薦を受け、会長が指名して幹事会の承認を得ることとなった。また、定員は各卒業年次ごとに 5 名以内とすることが承認された。

② 同窓会の財務健全化を測るべく、寄付金のお願いを継続的に行なった。また、新卒業生の年会費前納制度や同期会や

クラブ等の各種O B会において同窓会のアピールを行うなど、同窓会費納入率向上を目指して活動した。更に新規に独協通信に協賛スペース(事業主協賛金)を設け、収入増の一助となった。

③ 一昨年度から始まった総会前のO Bによる講演会は、法政大学社会学部大学院政策研究科教授で元日本銀行職員の田口博雄(昭和42年卒)をお迎えし、「セントラルバンキングの世界の内輪から」というタイトルで講演をしていただき、終了後多くの会員から質問があり盛況であった。

総会後の懇親会は、新入会員のほか、現役学生、教職員、同窓生の家族も参加して盛大に行われた。

④ 例年通り文化祭に参加し、昨年好評だった「私の趣味・逸品展」を行い、出品者と作品および制作エピソードなどが紹介された。また、クラブO B会、職域のO B会のほか、「獨協ぶらり旅」の展示も行われ、大変好評であった。

⑤ 平成25年度に新たな事業として始めた生徒を対象としたO B講演会(キャリア教育講演会)は今年で5回目となり、慶應義塾大学医学部睡眠医学研究寄付講座特任教授、東京睡眠医学センター長の遠藤拓郎先生(昭和56年卒)を招聘し、中3、高1、高2の生徒を対象に、獨協で過ごした学生時代の思い出や、東京慈恵医科大学に進学して医師になってから現在までのエピソードなど貴重な体験談を中心に講演をして頂いた。ご自身は睡眠医学の第一人者であり、受験生に必要な睡眠時間は?効果的な睡眠法とは?授業中に眠くなつた時の対処法は?など、講演終了後には生徒よりたくさんの質問があり大変好評であった。

⑥ 広報委員会は独協通信88、89号を発行した。同窓生が経営するお店を紹介する「獨協ぶらり旅」、また新規の企画として協賛スペース(事業主協賛金)を設けた。

⑦ 母校との交流として文化祭参加、卒業生への記念品贈呈、成績優秀者への記念品授与、父母向けの講演会開催等積極的に行った。さらにPTAとともに文化祭のバザーに協力し、収益は学友会への補助金として贈呈された。

<名簿管理および事務局の管理業務>

⑧ 会員情報については、個人情報守秘義務を遵守し、会員情報とともに同窓会事務局に厳重に管理されている。新規会員情報や既卒の会員の情報更新については、速やかに個人データ管理システムへ入力処理した。

第2号議案：平成29年度収支決算の件

会費納入者数は減少に歯止めがかかっていない。その一方で寄付金については約75万円増加した。また、新たに始めた協賛広告の会報掲載に個人事業主、企業、団体にご協力を得ることが出来た。会員諸兄の母校を想う気持ちに感謝したい。支出の削減に努めた結果、収支差額金を計上した。事業積立金への繰り入れとする。名簿積立金として200万円が確保されていたが個人情報保護法により会員名簿の作成が今後予定されていないため、一般事業積立金に振り替えた。

第3号議案：会長及び監事選出の件

会長及び監事の任期満了につき、新会長及び新監事(2名)を選出する。

第7条・会長及び監事は、会員中から総会で選出する。

- ・副会長は、会長が会員中から指名し、総会の承認を得る。
- ・幹事長は、会長が常任幹事中から指名し、総会の承認を得る。
- ・副幹事長は、会長が常任幹事中から指名し、幹事会の承認を得る。
- ・常任幹事は、会長が幹事中から指名し、幹事会の承認を得る。
- ・幹事は、各卒業年次ごとに会員の推薦を受け、会長が指名して幹事会の承認を得る。
- ・また、定員は各卒業年次ごとに5名以内とする。

第9条 会長、副会長及び監事の任期

- ・会長、副会長及び監事の任期は3年とし、再任を妨げない。但し、継続する場合には2期を限度とする。
- ・幹事長、副幹事長、常任幹事及び幹事の任期は3年とし、再任を妨げない。
- ・役員の任期の満了後、次期役員の決定までの期間は、前任者がその任務を継続し、且つ速やかに次期役員を決定する処置をとらなければならない。
- ・役員に次員を生じたときは、第7条の規定に準じ補充する。但し、補充役員の任期は前任の残任期間とする。

第4号議案：副会長及び幹事長承認の件

会則第7条により、副会長及び幹事長は会長が指名し、総会の承認を受けることになっている。

第5号議案：平成30年度事業計画の件

新会長のもと獨協同窓会の更なる発展のために努力致します。新執行部の人選と速やかな体制づくりをして、以下の主な事業・施策に取り組みます。

① 同窓会の財務健全化、さらに安定化に向け、まず第一に会費納入率の改善を検討してまいります。年齢による会費免除制度と比較的若年層の会費納入率が低いこと、更には会報発送費の高騰なども収支を圧迫しています。各年齢層において経済的な諸問題があると思われますが、問題を分析し改善策を検討してまいります。

② 平成25年度から始まった財務健全化向け寄付金のお願いを今後も継続してまいります。これは厳しい同窓会資産状況の中、学校から寄付(創立130周年記念事業として獨協中学・高等学校奨学金基金の増強のため1000万円寄付)の要請があり、更なる同窓会資産の圧迫に対応すべく行われましたが、多くの会員からの協力により5年間で950万円超える寄付金が集まりました。今後も、来たるべき獨協学園140周年記念事業として母校からの寄付要請など、多額の出費に備えるものです。

③ さらに、事業主などからの協賛金を募ること、各イベントにおいてスマイルボックスで寄付をお願いすること、新たな同窓会グッズの販売で収益を得るなど、財務健全化から安定化に向け努力してまいります。

④ 同窓会の年度行事の1つとなった生徒を対象としたO B講演会(キャリア教育講演会)を今年度も開催します。さらに、総会前に行う会員を対象にした講演会やPTAとの合同講演会を積極的に開催し、広報活動に務めてまいります。

⑤ 「ALL獨協構想」については、獨協学園すべての同窓会と連携を取りながら事業を進めてまいります。獨協同窓会ドクターズクラブ、歯科医師獨協会、獨協ファーマシストクラブ(獨協薬剤師会)、ホテル業界等多職種の交流会は年々活発となり、学校への寄付や講演会も行われています。同窓会として積極的に支援するとともに、交流会に参加して会費納入のお願いを行ってまいります。また、会員が気軽に利用できる同窓会員が経営するお店を紹介し、様々な領域で獨協人の輪を広げていくことを目的とした「獨協ぶらり旅」を継続し、独協通信に掲載致します。

⑥ 各年代においての同期会やクラブのO B会などを支援し、さらに還暦、古希、喜寿、傘寿等の会や、卒後10年、20年、30年の会等を積極的に企画提案し、同窓会活動の広報活動と会費納入率の向上を目指します。

⑦ 独協通信は例年通り2回発行し、新たな掲載内容や会費未納者への送付見直しなど経費削減策も検討します。またホームページをより機能的で見やすくするとともに、更新を迅速に行い、広報活動が積極的に行われるよう検討してまいります。

第6号議案：平成30年度収支予算案の件

引き続き経費管理を適切に勧める。一方、財務体質強化のために今後も様々なアイディアを募り実施に移していくことで同窓会の財務基盤をより強固にしていく。

平成29年度 収支決算書 及び 平成30年度予算案

平29年4月1日から平成30年3月31日まで

収入の部

科 目	29 年度決算額 (A)	29 年度予算額 (B)	30 年度予算額 (C)
入 会 金	6,300,000	6,300,000	6,300,000
一 般 会 費	5,595,000	6,000,000	6,600,000
新 卒 会 費	620,000	1,300,000	1,000,000
寄 付 金	2,617,306	1,200,000	1,700,000
財務拡充寄付	2,455,800	1,000,000	1,500,000
スマイルボックス	161,506	200,000	200,000
事 業 収 入	513,700	300,000	630,000
懇親会会費	296,000	250,000	300,000
協 賛 金	217,700	50,000	50,000
広 告 収 入			280,000
資 産 運 用 収 入	79,057	50,000	50,000
雜 収 入			
合 計	15,725,063	15,150,000	16,280,000

支出の部

科 目	29 年度決算額 (A)	29 年度予算額 (B)	30 年度予算額 (C)
事 業 費	8,470,976	8,529,600	9,329,600
(1) 総 会 費	1,872,061	1,700,000	1,700,000
(2) 会 報 費	2,502,360	2,300,000	2,300,000
(3) 事業通信費	2,680,859	3,000,000	3,000,000
(4) O B 会補助費	210,000	250,000	250,000
(5) 学校補助費	781,445	800,000	800,000
卒業生記念品費	381,445	400,000	400,000
図 書 費	200,000	200,000	200,000
学友会補助	200,000	200,000	200,000
(6) ホームページ費	129,600	129,600	129,600
(7) 獨協祭参加費	54,971	50,000	50,000
(8) その他事業費		50,000	50,000
(9) 慶弔費	92,180	100,000	100,000
(10) 渉外費	147,500	150,000	150,000
(11) グッズ製作費			800,000
事 務 費	2,803,869	2,817,200	2,917,200
(1) 事務運営費	984,508	900,000	1,000,000
(2) 管理費	774,500	800,000	800,000
(3) 会議費	373,562	400,000	400,000
(4) 旅費交通費	255,290	300,000	300,000
(5) 名簿管理費	367,200	367,200	367,200
(6) 雜 費	48,809	50,000	50,000
予 備 費	0	150,000	150,000
小 計	11,274,845	11,496,800	12,396,800
收 支 差 額 金	4,450,218	3,653,200	3,883,200
合 計	15,725,063	15,150,000	16,280,000

貸借対照表

平成30年3月31日現在 (単位 : 円)

有価証券		(負債)	
(1) 利付国債	7,000,000	未払金	32,400
(2) 東京都債	15,000,000	前受金	1,195,000
		(基本財産)	
定期預金	12,000,000	基本金	24,000,000
		(運用財産)	
現預金	28,088,503	事業積立金	32,410,885
		(1) 名簿積立金	0
		(2) 一般事業積立金	32,410,885
		取支差額金	4,450,218
	62,088,503		62,088,503

第5回キャリア教育講演会 報告

講師 遠 藤 拓 郎 (昭和 56 年卒)

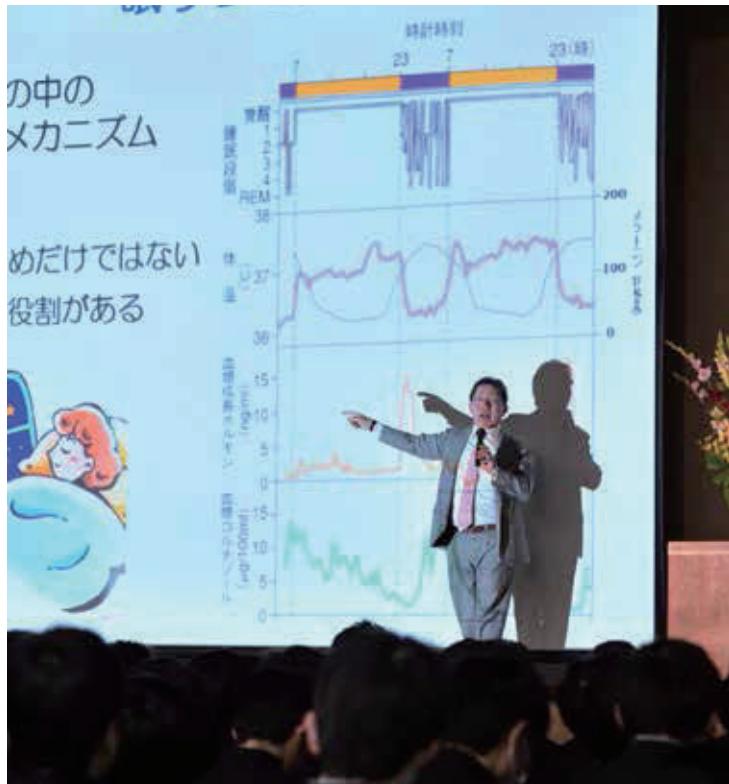
幹事長 木 原 正 義

2月17日母校講堂においてキャリア講演会が行われた。今回は慶應義塾大学医学部睡眠医学研究寄付講座特任教授、東京睡眠医学センター長の遠藤拓郎先生(昭和56年卒)を講師に迎え、中3、高1、高2の生徒を対象に、「睡眠医療の未来像」というテーマでご講演頂いた。

はじめに遠藤先生が獨協中学、高校で過ごされた頃の思い出話があり、中学時代は軟式テニス部に所属し、高校に入ってからはフリスビーに興味を抱き、2才年上の兄とペアを組んで出場した大会で準優勝するほどの腕前になったことなど、勉強以外にも夢中になって取り組んだ思い出を語られた。

医師を目指したきっかけは数学が好きだったこと。エンジニアになりたかったこと。そして父親からのアドバイスもあり医者になろうと決意したそうです。獨協高校卒業後は東京慈恵会医科大学に進学され、海外での留学を経て現在ご専門とされている睡眠医学の道を歩んでこられました。

続いてカラダの中の睡眠のメカニズムから始まり、睡眠と成長ホルモンの関係、年齢と睡眠、良好な睡眠を得るために環境作り、そしてITやロボットを活用した睡眠医学の未来像まで幅広く、とてもわかり易く



講演中の遠藤拓郎先生

講演して頂いた。さらに、夜更かしすることが多い、朝起きるのがつらい、夜寝付けない、授業中に眠くなる等中高生の悩みについて触れ、適切にアドバイスをして頂いた。

最後に「先輩からの一言」として、日曜日は9時までに起きる。部活をやる。好きなことはとことんやる。将来医師になったら獨協同窓会ドクターズクラブに入る。というお言葉を頂き、講演を終了された。

終了後たくさんの生徒から睡眠に対する悩みの質問があり、一つひとつ丁寧に、そしてユーモアを交えながら答えて頂き、大変盛況であった。



遠藤先生を囲んで



2018年度大学入試合格者数

進路指導部長 齋藤有子

今年の冬の寒さは例年になく厳しいものでしたが、いつしか季節は巡り、暖かな日差しがまぶしく感じられるようになりました。正門の桜もいつもより早くほころび始め、確かな春の訪れを感じさせてくれています。さて、3月10日には2017年度高校3年生197名が胸をはって本校を卒業していきました。受験という高いハードルに挑戦し、一人一人が学問的にも、人間的にも大きく成長してくれたようです。生花を胸に飾り卒業式に臨む姿は、これから社会を担っていく、

希望にあふれた青年としてのそれでした。今後はそれぞれの場で新たな生活を送ることとなります、どのような場面でも主体的に物事に取り組み、他者と協力し、自らを一層磨いてくれる、そして「社会の優等生」になってくれることを教職員一同信じています。今年度の入試は私立大学の入学定員厳格化の影響を大きく受け、大変厳しいものでしたが、本校の生徒は力一杯受験に臨みました。それでは、今年度の彼らの努力の成果をご覧ください。

2018年度大学別合格者数(推薦者も含め延べ人数)

進路指導部

<国公立大学>

東京農工	1
筑波	1
埼玉	2
宇都宮	1
名古屋市立	1
弘前	1
新潟	1
琉球	1
北見工業	1
海上保安大学校	1
防衛大学校	1
合 計	12

<難関私立大学>

早稲田	14
慶應義塾	4
上智	8
東京理科	24
合 計	50

<GMARCH>

学習院	9
明治	22
青山学院	11
立教	8
中央	8
法政	17
合 計	75

日本	51
東洋	16
駒澤	6
専修	6
成蹊	7
成城	2
明治学院	6
獨協	5
芝浦工業	13
東京農業	26
東京電機	19
東京都市	5
合 計	162

<医学部医学科>

獨協医科	2
岩手医科	1
金沢医科	1
杏林	4
埼玉医科	2
順天堂	1
昭和	1
聖マリアンナ医科大学	5
帝京	2
東海	1
東京医科	1
東邦	1
日本	2
日本医科大学	1
藤田保健衛生	1
ペーチ	1
デブレチエン	1
センメルワイス	1
合 計	29

<歯学部>

神奈川歯科	1
昭和	1
東京歯科	1
日本	1
日本歯科	2
大阪歯科	1
合 計	7

<薬学部>

東京薬科	1
帝京	2
帝京平成	2
城西	2
城西国際	1
日本薬科	3
星薬科	1
横浜薬科	1
合 計	13

<推薦入試等>

獨協医科推薦	2
獨協推薦	4
指定校推薦	12
公募推薦	3
AO入試	3

卒業生数	197
合格件数	429
現 役	240
既 卒	189

【指定校推薦進学内訳(2018年実績)】

早稲田(基幹理工1・創造理工1・先進理工1)

上智(理工1)、聖マリアンナ医科大学(1)

東京理科(建築1・経営工学1・経営1)、東京歯科(1)

青山学院(法1)、学習院(理1)、法政(政治1)

※上記以外に、日本歯科、立教、中央などから指定を受けています。

卒業式・謝恩会・入学式報告

教頭 松本 麻里子

平成30年（2018年）3月10日（土）、高等学校卒業式が行われました。今年度は197名が母校を巣立ち、それぞれの道へ進んでいきました。当日は、卒業証書授与の後、渡辺和雄校長の式辞、寺野彰理事長からのお話しのほか、ドイツ連邦共和国大使館ヴァネッサ・フニウス氏よりお祝いの言葉をいただきました。また、同窓会からは、卒業生全員に記念品を、また卒業生6名に特別賞をいただき、柳原克忠同窓会副会長より代表者へ授与されました。生徒たちは同窓会からのご厚意と表彰を励みの1つとしております。卒業生たちに代わり、御礼申し上げます。式典後はホテル椿山荘東京へ場所を移し、謝恩会が行われ、卒業生保

護者と来賓・教職員で和やかな時を過ごすことができました。

4月6日（金）の午前中は中学入学式、210名の新入生を迎えるました。寺野彰理事長、獨協大学の学長の御名代として山路朝彦副学長、浅野一同窓会会长などのご臨席をいただいて挙行され、新しい1年がスタートしました。



3月10日 高等学校卒業式



4月6日 中学入学式

第19回獨協同窓会ドクターズクラブ 報告

会長 伊藤公一（昭和51年卒・伊藤病院 院長）

19回目の集まりは2月17日に日本医科大学が主催しました。まずは母校講堂にて渡辺和雄校長が「獨協中学・高等学校の現状」を動画も含めて詳細に御紹介頂いた後、日本医大の卒業生を代表して、二神生爾・消化器内科教授（昭和58年卒）より「慢性膵炎と機能性ディスペプシア」、市川太郎准教授（昭和53年卒）より「普通のCTでもここまでわかる消化管」のタイトルで素晴らしい学術講演が成され、熱心なディスカッションが交わされました。その後、椿山荘にて、和やかな懇親会が開催されました。

このように毎回の幹事、座長、演者、全員が獨協学園出身者であり、世代や出身大学、診療科目を超えたユニークな研究会は、その存在が医学界で注目されております。

なお当日は、OB講演会として学術講演会前、現役生徒を対象に体育館にて遠藤拓郎・東京睡眠医学センター長・慶應大学特任教授（昭和56年卒・慈恵医大卒）より「睡眠医療の未来像」についての講演があり、生徒が熱心に聞き入っておりましたことも報告いたします。（5ページ参照）



第19回 「獨協同窓会 ドクターズクラブ」 懇親会、伊藤会長(前列中央)

吾が母、酒井アルマ

常任幹事 酒 井 府（昭和28年卒）

吾が母、酒井アルマは1907年（明治40年）6月21日に、Oder-Neisse河東側の旧ドイツ領、（現ポーランド領）PreussenのKolberg、近辺のドイツ人の家庭で生を受けた。

そしてBerlinで吾が父、酒井近美（オオミ）と知り合い、家族の猛反対を振り切って結婚。当時としては珍しい事だった様だが1928年（昭和3年）、（何月かは残念ながら私は知らないが）長いシベリア鉄道と日本海を船で二週間近く時間をかけ、来日した。母より聞いたシベリア鉄道での旅行で私の耳に残っている話は、民族差別を言うつもりはないが、三段ベッドの上から平気で唾を下に吐く当時の中国人客に辟易したと言う事ぐらいである。

その母は来日後、同年12月生まれの吾が長兄、昌美（アツミ）、1933年（昭和8年）生まれの次兄、晨史（アサト）、そして1934年（昭和9年）生まれの私（府。オサム）を生んだが、吾が父の収入が少なかったのか、或いは主婦にのみおさまっているのが嫌いだったのか私が生まれる前に、既に薬学専門学校で教鞭をとり、かつ、私が幼児であった時には渋谷区幡ヶ谷本町の家でドイツ語個人教授をしていた。この個人教授は私達一家が1945年（昭和20年）三月末に戦火を避けて栃木県鹿沼市の田舎の父の実家にいわゆる疎開をする迄続いた。さて、その疎開迄の太平洋戦争中、母は当時の反外国人の気風を避けるため、必ずしも好きではなかったハーケンクロイツのバッヂを胸に付けていた。

終戦後の1946年（昭和21年）一月末に東京へ戻った私達は先ず新宿区戸塚三丁目の借間で過ごし、その後品川区高輪の借家、港区白金の新築の家、更に目黒区碑文谷の新築の家に移り住んだが、やはり母の個人教授は戸塚三丁目時代から、父との離婚を経ても、ずっと続いたのである。私達三人を育てる為であった。そして、同時に1946年？、或いは1947年より、母の獨協中高でのドイツ語教授が始まったのである。それが、何時迄であったのか、私には鮮明ではない。同窓生の皆様がご存知であろう。



「幸せにならない限りドイツへ帰らない。」と言っていた母は、戦後長い間、故郷の親戚とは音信不通のままではあったが、ドイツ滞在した個人教授の或る教え子の尽力により、戦後直後ポーランド領になった故郷を追われて、（一人の妹がその途中、命を落としたが…）亡き父母以外の兄弟姉妹が移住したドイツの住居を知り、戦後三十年以上の時を経て、1975年頃より、生まれた故郷ではないが、幾度かドイツを訪れた。その母が望んだのは、私達三人を立派に育てる事であった。幸いに、私達三人はそれぞれ、法政大学、早稲田大学、獨協大学で教鞭を取った。それは2002年、95歳を目前にして亡くなった母にとって、幸せであったのであろうか？と、母の死後、次兄を失い、ドイツへ移住した長兄とは連絡の取れない私は思うのである。

（元獨協大学 学長）



獨協学園史資料センター提供

爆撃から護りぬいた我が独協

大倉 郁雄（昭和 23 年卒）

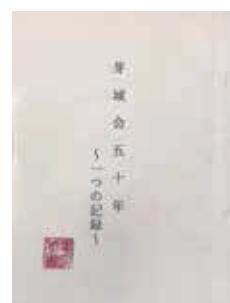
太平洋戦争・東京大空襲・無条件降伏・連合国日本の占領・戦後の独協。我々の独協時代は幾度となく国の存亡・価値観の転換・社会の変化に晒されて来た。国防色（カーキ色）の制服・戦闘帽と鉄甲・ゲートル・血液型記入の名札を胸に同期 300 名と入学。学科の他に軍事教練が重要な必修科目・軍人勅諭の暗唱・（2 年生）富士の裾野を木銃を担い這いずり回った野営・空爆から自らを守るために蛸壺式シェルターを二人で一穴づつ校庭に掘る日課。上級生は全学年軍需工場へ動員されて不在。留守を守る我々は菊の御紋章入りの新型歩兵銃での教練が始まったが束の間、天皇陛下から御預かりしていた銃として陸軍へ調達されてしまった。サイパン島玉砕・米空軍 B 29 の基地が完備され、日本全土は昼夜無差別盲爆が始まる。昭和 20 年 3 月（2 年生）学校は夜間の空襲に備え毎夜 10 名交替で校長室に野営（宿直）する。僕達は自分の家が爆撃に晒されるのも省みず校舎の守りに当たった。3 月 10 日夜間初の東京大空襲・60 万発の焼夷弾が落され東京の下町は火の海全焼 10 万余人の焼死者が出た。東京は無抵抗の戦場だった。我々にも軍から湯島天神下から浅草に至る焼跡の整理の勤務動員が命ぜられた。あまりの悲惨さに語る事も出来ない。4 月 13 日（小生当番）夜半 B 29・500 機西南の空から来襲・神楽坂・矢来・大曲・本郷・小日向台全焼。この夜は我が対空砲火で敵 B 29 を東京上空で撃ち落とす。5 月 24・25 日東京最後の大空襲焼け残した街を狙い攻撃、皇居を始め新宿・早稲田・鶴巻・音羽・池袋・目白・雑司ヶ谷・関口台・フランス教会（カテドラル）焼失。猛火の海から校舎を守り抜いたのはその夜の当番英語科の仲間だった。三度の夜間大空襲で東京は全焼。先生も生徒の多くは焼跡での穴ぐら生活。又田舎をたよりに地方へと逃げ延び、ちりじりばらばらとなつた。

こんな我々に動員命令は続いた。6 月赤羽のゴム工場へ（すぐ焼失した）、南多摩の忠生村（現在町田付近）に農村動員が発令され登校可能の 3 年生 50 名が各農家に 1 名ずつ宿り込み麦刈や田の草とりの農作業。敵「空母」から発進のグラマン戦闘機の機銃掃射に脅かされながら、つらい 18 日間を奉仕した。8 月 15 日日本降伏・連合国による日本占領、マッカーサー東京へ進駐（GHQ ゼネラルヘッド クウォーター）、日本全土の武装解除、独協の兵器庫（防空壕）から旧式の村田銃も接収される。我が独協はナチのドイツ系との誤解を招いてはと苦肉の策「独逸学協会中学校」を独立協和学園（独協）と改名、日本紙に墨筆書きで門柱に張り付けた。涙が出た。ドイツ国とドイツ語は地に落ち英語全盛の時代が到来。非国民扱いされて来た英語の先生は生き神様に変身。我々も英語を学習したくとも独協には只一人の先生しか存在しなかった。「國破れて山河有り」「我が独協は校舎と学生が残った」。長かった戦争は終り、自由の時代が到来したとは云え戦後の生活はより苦しく食糧難とインフレの波が押し寄せた。ちりじりになっていた先生や仲間達も焼土の中の校舎を頼りボツボツ戻りつつ来たが、空襲で校舎は荒れ果て窓ガラスは破れ、床や壁は穴だらけ、寒風が教室を吹き抜けていた。先生も生徒も皆空腹と寒さのため壊れた机や板ぎれを燃やし暖を取り歯を喰いしばり勉強した。慶應大学もドイツ語で受験した。仲間と命を張って護り抜いた我等の心の寄り所となった明治の木造の校舎が無かりせば天野貞祐先生を御迎えする事も適わなかったのではなかったか。運命の夜から 73 年、同期の仲間を代表して記す。

昭和 23 年（独語科）旧制中学最後の 5 年生卒業（弟二人も独協卒、15 ページ右下参照）

昭和20年5卒 ドイツ語科有志、卒寿を記念して3回目の文集を発行

私達の学年「芽城会」では 90 才を迎えた今日、あの大戦の最中に独協で過ごした頃、恩師や逝ってしまった仲間の事や、しかし反面、元気で明るく、リベラルな校風に包まれて勉学に励んだ幸せな日々などの記憶を記録して再度文集として発行を発起した。世話役を同窓会常任幹事の神山一郎君が引き受けってくれ、10 名位の仲間から原稿を集め編集校正を担当してくれた。言うまでもなく、当時卒業式も卒業証書もなく、母校を後にした。好まざる環境の中、希望を捨てる事なく頑張ったのだ。独協ガイストの灯を消すこと、諦める事はなかった。文集は同窓会文庫に寄贈させて頂きますので、卒寿の同窓会会員のメッセージとしてお読み戴ければ幸いです。（文責：黒沼昭夫）



平成 9 年発行



平成 20 年発行



獨協ぶらり旅

広報 柳原克忠

この企画は、獨協中学・獨協高等学校の卒業生が経営する「お店」をぶらりと訪ね、お店の様子を皆さんに報告するという新しい試みです。皆様の周囲にも多くの同窓生が経営する同窓生に親切なお店があると思います。ぜひ同窓会まで紹介ください。地域で頑張る同窓生を応援しましょう！

中国料理 太湖飯店

昭和43年卒業 ヨウ 姚 明雄さん

「獨協はいい学校でした、クラブを通じて親友もできましたし、担当の先生方とも卒業後もしばらくお付き合いさせていただきました。」白い調理服で届託のない笑顔で歓迎していただいた。獨協嘶が続く。昭和37年獨協中学入学、浅草から都電を乗り継ぎ、江戸川橋から坂を上がり通学。神田先生ご指導で野球部に入り心身を鍛え、背もだいぶ伸びたよう。勉強もしたが、野球に熱中。そして、高校、阿出川先生ご指導で自転車部へ。足立区の自宅からは自転車通学だった。無二の親友を得る。安川ひろし君、天野貞祐先生のお孫さん。自転車で競い合った仲で、全国大会、インターハイ青森大会などに出場した。いまでも、彼が年に一度、住まいのモナコから帰国するたびここで賑やかに会食する。数学の増田先生、栗原先生、音楽の上林先生等からの厳しいご指導は忘れられない——などなど。この店は親の代から創業50年、明雄さんが高校卒業後、当時の赤坂山王飯店に弟子入りし、25才まで修業した後、戻り30才で引き継ぎ69才の今日にいたる。体力的にはキツイが、今やインターネットでも採りあげられる、名物のあんかけ焼きそばをはじめ、宴会料理にも張り切っている。宴会ご予約はお早めに。

最後に「今思うと、獨協で先生や友達に恵まれ本当に良かった。素晴らしい時代でした。天野校長の朝礼では、いつも同じ話ばかり~などと思っていたが、今になって、時々思い出します。これが、教育なんだなと感じています。また、お越しください」



所在地：千代田区神田三崎町 2-10-12
電話：03-3261-5831
太湖ビル 1F 2F
JR水道橋駅西口から3分
日・祝休業 土曜日は昼のみ

村山書店

代表取締役 柳川正徳さん

世界最大規模を誇る神田古本屋街、その中心に位置する「村山書店」。三省堂と書泉グランデの間にあり濃いブルーの外装がひときは目立つ。現在の店主、柳川さんは、獨協を昭和30年卒業の2代目、村山栄一さんが1999年他界された後、娘婿として跡を継いだ3代目。創業は昭和の始めて、以来90年この地で一般図書から建築工学関係書籍、カメラ、音楽関係書籍などの専門書を多く扱ってきた。その中で、村山書店の自慢は他店では手に入らない、絶版となっている講談社学術文庫である。ほとんどが書棚一面所狭しと並んでいる。例のブルーの表紙のもの。インタビュー取材を一時中断、古本漁りを開始。早速、目についたナンバー404から407までの4冊を取り、即購入。なんと、絶版久しい「イマヌエル・カント／天野貞祐 訳 純粹理性批判」の1巻から4巻である。さらに探すと、天野貞祐著「純粹理性批判について」をも発見、購入。いずれも、状態の良いもので購入できた満足感しばし。取材にもどると、柳川さんは趣味でフルートの演奏活動する傍ら、旧獨協医科大学越谷病院（現獨協医科大学埼玉医療センター）のドクターや看護師・職員の皆さんと毎年の8月南越谷阿波踊りに篠笛で参加している。そのため、毎週末一緒に練習することが楽しみのこと。などなど、獨協のご縁を感じながらの楽しい一時であった。さくら祭りでお忙しい中のご対応に感謝です。



所在地：千代田区神田神保町 1-3
電話：03-3291-1617
都営新宿線 神保町駅 5分

コラム・ドイツ

ヨーロッパトラム巡り 第5回(最終回) Dresden 「人が乗れないトラム」 谷口 有三 (昭和53年卒)



シリーズ最終回は迷ったが、ドレスデンを選んだ。あるドイツ人が「ドイツの京都だ」と表現していたが大戦で瓦礫の山に変わり果てたものの古都は復興し、是非とも訪れて頂きたい美しい町であるからだ。私がここを訪れた目的はフォルクスワーゲンの工場見学だった。近年、省エネ、廃液や排煙などを出さないなど環境に優しい工場が増えているが、この工場は騒音にも配慮した取り組みが進んでいる。

「Gläserne manufaktur (グレーゼルネ マヌファクトゥール・ガラスの工場)」と呼ばれ、壁面はすべてガラス張りでSF映画の中に出てくるような未来的建築の中は、自然光が降り注ぎ背後の森が全面ガラスのお蔭で完全な借景、場内は木材を多用しているため、自然と一体化した製造現場だった。そして驚くべきところはその静けさ。工員さんの咳払いも聞こえるほどで図書館並みの静けさ。音の出るものは徹底排除。フォークリフトの代わりに電動ロボットカーがライトを点滅させながら最小限の動き。塗装は専用工場で施し、組み立てパーツの搬入に登場するのがなんと路面電車であった。トラックの代わりに4、50分間隔でコンテナを5台連ねた電車が到着する。これは静かだ。さらにハンマーまで叩く音が出ない材質という徹底ぶり。肉声で構内を説明して下さったガイドさんに、「Wunderbar (ブンダーバール・すばらしい)！」と称賛したら工員さんに一斉に振り向かれてしまった。ドイツ語の表現に「やるからには徹底しろ」というのがあったことを思い出した。原語でどう言うか忘れたが、目標達成のために徹底して取り組むドイ



ツ人の気質に学ぶ点は多いと思っている。我々の先輩方は医学や法学を学ぶために獨協を選んだ。今日では昔ほどドイツに学ぼうという風潮は日本には無いが、私は獨協に学んだご縁で今もドイツをぶらぶらしている、大好きなtramに乗って。読者の皆さま甚だ拙文でございましたが5回にわたりご高覧下さいましたこと心より御礼申し上げます。



フォルクスワーゲン工場

常任幹事会 開催



4月21日（土）常任幹事会 総会議案など協議



浅野会長を囲んで懇親会

クラス会だより

昭和 25 年度卒ドイツ語科 大豆会

大豆会は平成 29 年 10 月 12 日、霞が関ビルレストランけやきで開催された。

常連の石川 洋君、松田 務君が歩行に不安をおぼえ欠席、出席者は 8 名と寂しくなりました。

70 年前の悪童に戻り楽しい語らいのひと時でした。“華麗に超高貴高齢者へ”という話を私がする予定でしたが、1人が体調不良となり救急車で虎ノ門病院へという緊急事態。奥様と連絡を取り、地元の病院へ転送されるまで、中村雅美君と私が付き添いました。1週間後ご自身から無事退院、以後外来治療とのお電話をいただきました。1日も早いご全快を祈ります。虎ノ門病院救急科 石井 健先生、スタッフの皆様に大



戸星先生訪問記

平成 29 年 11 月 18 日（土）、福岡県糸島市に在住の戸星先生宅を下記 8 名で訪問しました。今回の訪問は、平成 29 年 3 月 18 日（土）椿山荘での古希同窓会を行なった際、遠方のため欠席された先生を、我々が訪ねて行こうとの趣旨で計画したものです。

先生は獨協のあと、福岡の西南学院大学に招聘され名誉教授になられて現在は退職されています。先生が昭和 39 年、獨協に来られて初めて受け持ったのが我々高校 1 年 1 組ドイツ語クラスでした。ドイツ語の授業のほか、クラスを数チームに分け放課後にサッカーをするなど熱血先生として我々に向き合ってくれました。夏休み明けには、水泳部の大塚喜八君が朝練習で亡くなる悲しい出来事もありました。また、或る日、授業の最初に「私は人間として責任を果たした」と言われて何のことかと思ったらお嬢さんが産まれたとのことでした。

先生のお宅では、奥様及び（責任を果たした）お嬢

変ご高配を賜りました。大豆会一同心より感謝申し上げます。

（記：本田光芳）

昭和 31 年卒ドイツ語 クラス会

例年 6 月に開催しているクラス会を昨年は諸事情により開催できませんでした。今年の新年会もまた例年通りに開催できず、今回は平成 30 年度のクラス会として久しぶりに有楽町の「ねぎし」に皆で集まりました。昭和 30 年度ドイツ語クラス卒業のクラスメイト 28 名中、現在連絡のつくのは 12 名、80 歳にもなると元気な顔を見られる仲間もだんだん少なくなってきます。1 年に 2 回くらいは仲間の顔を見たいなど始めた新年会もなかなか難しくなり、時間帯にしても夕方より昼間の方が集りやすくなってきました。そんな中、



様にお目にかかることが出来、美味しい料理とお酒をご馳走になりました。先生は 50 年以上前の我々一人ひとりのことを良く覚えていて下さり、また、日本の少子化問題や若者の将来について提言されるなど話が弾みました。お互いの健康を期して先生宅をおいとましましたが、50 年前にタイムスリップした夢の様なひとときを過ごしました。

訪問メンバー：飯田康夫、石川博文、小林優元、鈴木純一、野澤正、濱村学夫、宮崎輝雄、吉川勝

（記：野澤 正）



クラス会だより

今年は8名が集まり酒を酌み交わし始めるにあつといふ間にタイムスリップ、友の顔は共に過ごした青春時代に戻り、思い出話に花が咲きます。まだまだ気持ちは昔のまま、そしてまだまだやり残したことが沢山あります。いろいろ話は尽きませんでしたがあつといふ間に楽しい時間過ぎていき、我々はまたの再会を約束して散会しました。(幹事：山口眞護)

昭和38年卒英語科 同期会

夏の暑さの戻りの感じのもと、1年ぶりに再会する。恒例の38年卒英語科同期会が、平成29年8月27日、例年どおり上野公園内「韻松亭」にて開催され8名が集う。今回の話題の中心はいつもは寡黙のNさん。2カ月前にサラリーマン生活が終了したことから始まり、雄弁にスピーチし、幅広く自分を表現した。新しい個人の有り様を覚えた。高校生活を振り返る過程で、もう一人Yさんの発言には皆は真顔となつた。天野貞祐校長に獨協教育のあり方についての考えを書簡にし提出した思い出を語ったのである。「足元の好ましくない教育を見ずして教育を語ることなけれ」との意見である。その後に、現在ならば絶対に実施されることのない発生事象について、私の当時不思議に感じていた記憶がよみがえった。教員と生徒の関係が問題となっている昨今を鑑みる時、獨協教育における歴史的1コマを経験していたのである。このような仲間・先輩がいることを誇りにしながら、後輩諸君にも自由闊達な教育環境が醸成されることを願つて、散会となる。

(記：辻 定利)



昭和41年卒 第52回 獨協1月会

平成30年1月20日に開催しました。
場所：東京アルカディア市ヶ谷 中華「翠(すい)」
今回も幹事は、私中村が引き受けました。

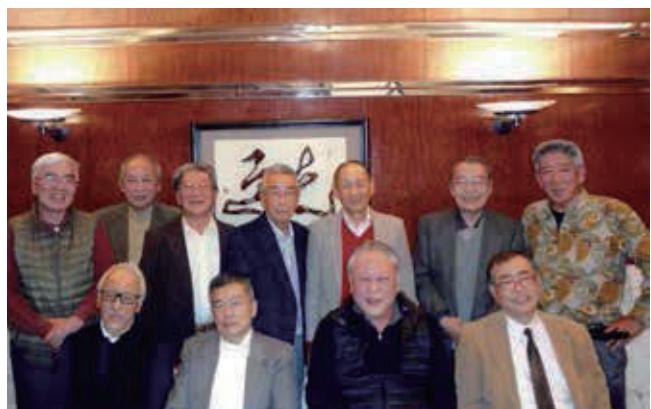
出席者は、小杉喬志君、堀江重之君、森田芳和君、河崎達彦君、松本己俊君、藤井哲夫君、長村 洋君、下村博一君、平岡徳朗君と中村昭美の10名です。

今回は一昨年、昨年にメンバーの吉田均君と佐藤和美君が続けて逝去され、献杯でご冥福をお祈りいたし、52年の思い出に浸り彼らの元気な時の話も飛び出し今元気な参加者の近況を一人、一人発言してもらいました。

今回初めて参加された、松本君と2組のミニクラス会幹事の平岡君も学生時代の時に戻り、当時を思い出して盛り上がり大変有意義な会になりました。

昨年9月24日の古希の同窓会の話も出て菅野君と里村君のチェロとピアノの演奏の素晴らしさを賛美しておりました。今年の同窓会の懇親会で再度演奏をして頂く予定ですので同期の方は奮って参加していただきたいと思います。来年は平成31年1月19日に水道橋で開催予定です。

(幹事：中村昭美)



昭和41年卒 第17回 ミニクラス会

平成30年1月27日(土)に開催しました。

場所：有楽町 中華料理「慶楽」

毎回幹事は平岡君がインターネットと電話で連絡をして昭和35年中学入学時2組を中心に1組の一部のメンバーで開催しております。



クラス会だより

今回の参加者は上原君、加藤君、島田君、土屋君、正木君、喜多君、白水君、巣瀬君、立野君、山口君、平岡君の11名です。

年2回、1月と7月に行っております。一昨年の夏のクラス会に参加してくれた木内君が残念なことに昨年の7月に逝去され、献杯の後、久々の参加の白水君が来てくれました。獨協時代の話に入ると尽きることなく古希の歳を忘れさせてくれた会話で、時間を忘れてしまう程盛り上がっておりました。

今年の夏の会は浜松町の「牡丹」で開催する予定です。

今回残念ながらインフルエンザで参加できなかった中村が投稿させていただきました。(幹事：中村昭美)

昭和49年卒 金 有一先生3組クラス会

今回、突然の寒波が押し寄せる中、平成29年11月18日(土)渋谷に有ります台湾料理（麗郷）にて、金有一先生をお迎え致しましてクラス会を行いました。

参加人数は、先生を含め11名でした。皆様の近況報告から始まり、それぞれの子供の進路や就職状況の話に盛り上がり、皆も年を取り親もしくは、御爺さんに成った方々も居ました。

生徒が年を取った様に見られる中、金先生は、元気に山に登ったりとお元気な様子を拝聴致しうれしく思いました。あっという間の3時間でした。これからも先生を見習い元気でクラス会が出来る事を願って居ります。次回、金先生の喜寿のお祝いで先生並びに、クラスの方々とお逢い致します事を楽しみに致して居ります。

(幹事：八丁順子、小野田敦)



平成18年卒 30歳記念会

2017年9月2日(土) 池袋サンシャインクルーズにて同期会が開催された。卒業して12年、今年で30歳を記念しての会だ。先生方にも全員出席して頂きとても楽しい会となった。

私は高校を卒業する時に今後も交流を持ち続けられるようにしようと決めた。理由は単純で彼らとの時間がこれ以上ないほど大好きだからだ。こんなに楽しい時間はない。今回の集まりでもそれを確認できた。私と同じような思いを抱いている友人が他にもいるかもしれない。今後もこういった集まりの機会を設け続けたいと思う。飲み会だけでなく春と秋にゴルフコンペの開催も考えている。また、OBとして現役生に役立てるような活動も考えている。みんなで獨協を盛り上げよう。

(幹事：吉川 恵)



獨協卓球部OB会

昭和22年卒の大池茂保先輩から始まった卓球部、最近の活動は大池先輩による講話会「卓球部が出来た頃の獨協」、また生徒OB交流会(平成29年6月17日(土))では昭和29年卒足立菊保先輩をはじめ多数のOBの参加で盛況となりました。これからも後輩と一緒に



クラス会だより

に遊んでもらいたいとOB諸兄は願っております。
予告→今秋、創部71周年を祝う会を開催予定
(記:佐藤真人)

柔道部OB会

2017年12月23日(金)年末恒例の「納会」が開催され、「OB対現役戦」が行われた(右は試合前の記念撮影)。試合後に合同稽古もあり参加者は皆気持ちの良い汗を流し、その後の忘年会で2017年を締めくくった。

2018年2月10日(土)には第59回校内柔道大会が開催された。もうすぐ還暦を迎える伝統ある行事。一時は、部員だけでなく学内の猛者が集結する大会で

もあったが、現在は現役部員の総当たり戦がくりひろげられている。入賞者にはOB会から表彰状と記念品が贈られた。

5月26日(土)、OB会総会および懇親会が開催され、2018年度の行事が決定する。(記:鈴木成之)



私の近況 卒業70年

●平成29年3月30日で満87才になり、当日で現役を退くことにしました。今後はサムウェル・ウルマンの詩「青春」を座右の銘とすることにした。

<安藤元久(昭22卒)>

●お世話になっております。義父飯原博昨年8月、病気の為永眠いたしました。「独協通信」長い間お送りしていただきありがとうございました。

<飯原博(昭23卒)>

●お世話になります。息子が代筆させていただきます。父は現在介護付き老人ホームに入居していて自分では歩けない状態になってしまいました。今年の誕生日を迎えることができれば米寿となります。とりあえずご報告まで。

<内海敏雄(昭23卒)>

●終戦をはさんだ激動期を在校生としてすごしました。空襲や工場動員、戦後の窮屈など。しかし若さだけはあったのかなと今思います。当時の先生方、旧友諸兄に感謝しています。

<橋本徳朗(昭23卒)>

●5学年制度旧制中学の1学年から3学年の夏迄は戦争真っ只中。一般教科より軍事教練の成績が重要視される時代でした。最近は加齢による記憶力減退で、一日中探し物をしています。

<岩間重夫(昭23卒)>

●医師を目指して当校に入学しましたが、結果的に薬剤師になり、関係者のご支援で大手製薬会社のプロパーで入社しました。その際、第3回・薬剤師国家試験で全国一番になり、情報紙にも報道され、新医薬品の研究開発に関与することになり、今でも、当時関連した医薬品がPRされています。正しく生きがいになって居る次第です。今でも結構地域で“くすり”的ことや健康生きがいづくりアドバイザーとしての話をたのまっています(87才です)。

<栗原忠聖(昭23卒)>

●卒業して70年、87才になりました。当然在学中は戦時下、工場動員の日々、3年生の夏終戦、大変な時代でした。今日の平和な日々に感謝しつつ過ごして

居ります。現在の目標は、①東京オリンピックを元気な健康老人として迎える事、②ゴルフでエージショートを達成する事です。

<上田豊(昭23卒)>

●中学校に入学して73年。高台にある学校への急坂道で毎朝チョビ髭・ステッキ・大きな声の田村教頭先生に「三鳩」と声を掛けさせていただいたあの日々。又、生涯の親友川村君との出会い。少年期～青年期への思い出坂道です。

<三鳩保彦(昭23卒)>

●(87歳)老化を感じながら一独協通信第81号の私の近況の18ページに私の記事が、東京大空襲S20.3月10日に亡くなった旧友の無念さを…、今も彼らの為に、満87歳ですが現役で【医療マッサージ専門技士】として病院で働いております彼らの為に…。心の中では戦争はまだ終わっていません。彼らの分まで精一杯生きる使命で生き抜きます!!

<中山暢(昭23卒)>

●独協時代から「八ヶ岳」が大好きで山荘では無農薬の野菜作りとGOLFを楽しんでいます。お陰様で「米寿」の春を迎える事が出来ました。中学2年「太平洋戦争中校長室へ泊まり込み敵B29の猛爆から明治校舎を仲間と守りぬいた自負が有ります。故人になりましたが弟2人、大倉舜二(写真家)、大倉昌雄(日本ルノー社長)も獨協出身です。(昭和23年(獨)大倉郁雄(株)高島屋OB)

<大倉郁雄(昭23卒)>

●3年前に室内が他界し、それ以来可もなく不可もなく毎日を送っております。健康面では、数年来不整脈と高血圧で1ヶ月に一度循環器科に通っております。なお、足腰の体力の衰えは養われず庭木の手入れや軽作業も最近では長続きせず、新聞やテレビを見たりすることが日課となっております。

<保田潤(昭23卒)>

●80台半ばを超えても親友といえるのはお互いの家に泊り込んで、親にも言えぬ話を明け方まで話合った

私の近況 卒業10年

6年間の青春時代を共に過ごした獨協時代の友人となる。父親と長男と併せて三代続けて獨協の門を潜った。

<橋 繁(昭25卒)>

●卒後60年。卒業時の校長は天野貞祐先生でした。朝礼で「君達は上品な人になりなさい」と言われたことが印象に残っています。私も席を譲られる年令になった今、自分は果して上品な人であろうか。今の日本にいわゆる紳士はどのくらいいるのだろうか。

<福井 秀義(昭33卒)>

●釧路で撮った丹頂鶴の親子に魅せられ、北海道や関西へ自然と人との出会いを楽しみに毎月出かけます。診療は次男に継承し、週一回の外来と手術をします。

<田中 雅治(昭33卒)>



タンチョウの親子
ヒナは生後7日目
北海道 釧路にて
2015年6月撮影

●現在も会社で現役として頑張っており、趣味のゴルフ、旅行も夫婦で楽しんでいます。卒業から60年、学校周辺も変わっていることだと思います。

<福島 尾夫(昭33卒)>

●<獨協高校時代の思い出>獨協時代、天野貞祐校長が朝礼で話してくれたことを思い出します。“自由”は勝手気ままにすることと履き違えているが、我儘は本来自我の否定で、この否定の否定をして真の自我に帰ることで自由が見出される。その間は、一高校長新渡戸稻造先生の言う「見る人のこころここにまかせおき、高嶺に澄める秋の夜の月」の心境でいなさい。

<矢島 純(昭43卒)>

●本年3月で45年間の社会人生活から卒業します。その間12年のドイツ勤務を経験 came もの、獨協でのドイツ語習得でした。感謝しています。

<三宅 博(昭43卒)>

●獨協時代の学友達は今も続く間柄、ケンカしたり、笑ったり、将来を語り合ったりしたからでしょうか？吾クラスは成績の悪かった順に社会に出てから優等生となった者が多々おります。面白いクラスに在籍したこと及び苦労された先生に感謝！

<村上喜代次(順改め)ドイツ語クラス(昭43卒)>

●卒後50年になりますが、今も楽しかった3年間を懐かしく想い出します。友人にも恵まれ感謝いたしております。3年時の担任高梨先生、忘れられません。

<有本 啓三(昭43卒)>

●顧みればもう卒後50年になるのかと感慨一入です。獨協中高時代は青春の真盛りで、沢山の楽しい思い出

があります。昨年獨協三師会、東京薬科大学獨協会に出席しました。趣味の風景写真と漢方薬局を生涯現役で続けたいと思っています。

<糸川 義雄(昭43卒)>

●卒業して50年、天野先生から「君達は可能性そのもの」と言われたことに実感される年頃になりました。天野先生のご自宅にお邪魔した際に「急がずに休まずに」と色紙に書いていただき、今も座右の銘としています。現在は、後輩の田中杉並区長を応援しています。

<永谷小太郎(昭43卒)>

●50才台後半までは環境変化目まぐるしく、母校は風の向こうにありました。こここの所、同窓会、サッカーチームOB会、学習院シニアOBとの定期交流試合、学園祭と面白に行き、旧交を温める機会が増えました。

<斎藤 幸一(昭43卒)>

●クリニックを開業して16年。マラソン、山岳レース、登山と趣味に頑張っています。

<山崎 徹(昭53卒)>

●50歳を過ぎ、5年かかって緩和医療専門医となり、2006年から在宅専門診療所を始め、1280名のがん患者さんを自宅で看取りました。2016年にbest doctors in Japanに選ばれ、昨年4月に開業しました。

<渡辺 邦彦(昭53卒)>

●卒後40年、年に数回盃を傾ける面々との話題は健康問題。医者の不養生とならぬ様気を付けたいが…。初孫もうまれたことだしスローライフを目指したいものだ。

<田尻 明(昭53卒)>

●高校卒業40年、さいたま市で内科医院開業21年です。仕事、子育てに加え、親の介護が増えました。地域では多くの同窓生、同級生と一緒に地域医療に参画しています。

<桃木 茂(昭53卒)>

●北海道に住みついて40年。旭川・札幌・丸瀬布・佐呂間などを経て、現在札幌に住んでいます。来年の還暦を目前にして、4月から新たな職場に移ります。

<小谷 裕美(昭53卒)>

●遅れてスタートした歯科医生活も今年で28年。娘が大学3年生になり、最近では男しかいない獨協同期の集りが無上の楽しみです。

<庄司 晃(昭53卒)>

●慈恵医大の外科医を30年、その後千葉県市原市姉崎で父の跡継ぎ3年が経ちました。開業医も大変で、家族や職員の事を考えると身の引き締まる思いです。昨年、S55卒の弟康明を亡くしました。

<遠山 洋一(昭53卒)>

●勤務しています日立製作所のヘルスケア部門が東上野のイーストタワーに引越しをしました。夜毎、アメ横、上の広小路、上野公園を散策して疲れを癒しています。桜の季節とシャンシャンの成長が楽しみです。

<坂井 英貴(昭53卒)>

●羽村に引っ越して7年、昨年宗禅寺住職に就任致しました。今も同級生とは一緒にお酒を呑んだりしています。双子の娘も今年幼稚園に入園しました。38歳

私の近況 卒業10年

になり、すでに人生半分終わっているのかもと思ったりしています。

<高井和正(旧姓:山崎) (平10卒)>

●卒業して20年が経過し、感慨深いものがございました。一昨年仕事で椿山荘に行った時に校舎が当時と様変わりしていたことを知りました。機会が合えば次の総会に参加します。 <國松常芳(平10卒)>

●大学卒業後は縁があり奈良県の橿原神宮につとめています。獨協時代の友人とは今でも仲良くしています。奈良県にお見えの際は是非御参拝下さい。

高鉢義嗣<(平10卒)>

●現在は千葉県千葉市でクリニックを開業しております

す。(伯父の後を引き継いで)高齢化に伴う地域医療の大変さを感じています。卒業してもう20年のような、まだ20年のような感じですが、最近高校の頃の友人と久しぶりに再会し、楽しい時間を過ごしました。

<新健太郎(平10卒)>

●2017年11月より職場が変り、妻と3才の息子と3人でフランスに住み始めました。ドイツ語なら多少は慣れ親しんでいましたが、フランス語は未知の世界で一から勉強です。 <五味川健治(平10卒)>

●医師として5年目を迎えます。忙しい毎日ですが充実しています。昨年結婚して男の子に恵まれました。

<飯塚賢太郎(平20卒)>



田代雄一先生を偲んで

沖山秀司(昭和49年卒)

平成30年3月6日 田代雄一先生が逝去されました。享年88。

田代先生は、昭和35年4月から平成7年3月まで、獨協中学・高校にて数学の先生として教鞭をとられました。私は昭和43年、中学

1年1組で獨協人生をスタートさせ、代数は古川成太郎先生、幾何を田代雄一先生に習いました。ある時、古川先生はホームルームの時間、通年裸足に下駄を愛用している田代先生の話をされました。海の男としての田代先

生を知った瞬間でした。

昭和44年12月14日(日)田代先生の所有するヨット「瑠沙二世号」に乗艇し、私のヨット人生もスタートしました。獨協大学へ進学してから、毎週末は横須賀に係留されている田代先生の愛艇「瑠沙」に泊まり、翌日曜日に船にやってくる防大生(ヨット部)と一緒にSailing技術の体得に励みました。田代先生は、ご出身の埼玉大をはじめ、防衛大、獨協大、のヨット部の指導に貢献しました。獨協中学に進学した結果、田代先生に出会い、私も生涯Sailingを愛する人生です。合掌

寄付金納入者一覧 (「89号」以降)

(敬称略)

中島 一 (昭和12)	斎藤 明郎 (昭和34)	吉田 崇 (昭和40)	山口 壮 (昭和54)
竹内 政和 (昭和18)	吉本 明康 (昭和34)	澤田 和夫 (昭和40)	高田 正道 (昭和55)
玉川 健二郎 (昭和20)	高橋 龍二 (昭和34)	大隅 敏彦 (昭和41)	林 育 (昭和56)
細貝 祐太郎 (昭和20)	里見 治 (昭和35)	池松 武直 (昭和41)	吉松 栄彦 (昭和59)
栗原 忠聖 (昭和23)	藤田 実彦 (昭和35)	宮崎 輝雄 (昭和42)	山崎 博之 (昭和59)
大倉 郁雄 (昭和23)	益井 邦夫 (昭和37)	高木 道生 (昭和47)	福澄 重泰 (昭和61)
大場 莊介 (昭和23)	今枝 輝生 (昭和37)	秋元 雅之 (昭和48)	矢野 剛司 (昭和62)
多賀 秀世 (昭和24)	小坂 弘道 (昭和37)	昭和41卒古希の同窓会	梶田 利文 (平成01)
海上 雅臣 (昭和25)	鈴木 重家 (昭和38)	神田 元子	武方 浩紀 (平成02)
桑嶋 陽一 (昭和29)	石上 浩庸 (昭和38)	木村 宗孝 (昭和50)	梅田 努 (平成07)
梅田 厚 (昭和34)	大熊 靖雄 (昭和39)	入野 満哉 (昭和51)	中島 健太郎 (平成25)
原 鎇一 (昭和34)	柳原 克忠 (昭和39)	伊藤 英一 (昭和52)	森 弘帆 (平成28)

ご協力ありがとうございました。今後とも会費納入のご協力をよろしくお願い申し上げます。

物故者名簿 (『獨協通信』89号以降) ご冥福をお祈り申し上げます

氏名	卒業年	物故年月日	中東策	昭和20年	2016/8/12	宮崎 善雄	昭和31年	2017/11/25
関口 存彦	昭和17年	2015/1/13	長澤 源夫	昭和20年	2017/4/26	森 靖彦	昭和36年	2016/12
横田 豊	昭和17年	2017/6/20	相沢 正晴	昭和21年	2017/10/20	大熊 靖雄	昭和39年	2017/4
渡辺 武	昭和18年	2017/11/1	高崎 悅司	昭和22年	2017/9/17	青木 宏光	昭和39年	2017/12
田中 元	昭和19年	2016/12	高松 成信	昭和22年	2015/9/24	佐藤 和美	昭和41年	2017/4/5
藤富 保男	昭和20年	2017/9/1	飯原 博	昭和23年	2017/8/11	足立 勝正	昭和58年	2017/11/27
			大坪 邦夫	昭和25年	2017/4/23			

学園トピックス

● 「獨協医科大学埼玉医療センター」スタート

1984年開院した「獨協医科大学越谷病院」は以来33年を経て、昨年11月15日、念願の「獨協医科大学埼玉医療センター」新棟竣工を果たした。高度先進医療を積極的に取り入れ、併せて質の高い医療人の育成を目指し「病気を治し、病人を癒す」安全で迅速な対応をめざす。ここに、新旧棟合わせ923床の埼玉県最大級の総合医療センターが誕生。この外科系新棟は地上8階、地下2階規模で、特筆すべきは、ハイブリット手術室やダヴィンチを備えた手術室を含め22の手術室とICU,HCUを完備、より高度な手術に対応できる環境を整えたこと。また、新たに臨床研修センターを設け、初期臨床研修医の積極的な募集とその指導に力を注ぐなど未来に向けての医療人の育成に努める。今後は、埼玉県東部地域のみならず、全域及び首都圏広域にわたる患者の受け入れ可能となった。

病院長 岡田 弘
住 所 埼玉県越谷市南越谷 2-1-50 〒343-8555
電 話 048-965-1111 (代表)

最寄駅 東武スカイツリーライン 「新越谷駅」から徒歩3分
J R 武蔵野線 「南越谷駅」から徒歩3分



● 獨協大学同窓会 創立50周年記念式典挙行

3月24日、快晴の日、獨協大学同窓会は創立50周年記念するセレモニーを桜咲く校庭で挙行し、獨協学園関係者多数参列の中、高さ5mの獨協大学創生期の校舎を模した4本の支柱に支えられた丸型4面時計を除幕・寄贈した。須藤明弘会長(獨協高校 昭和42年卒)から「次の50年に向けて、大学の歴史を考えつつ、学生の皆さんに親しまれながら、一緒に時を刻んでいきたい。」旨挨拶。獨協同窓会から浅野会長、柳原副会長が出席し祝意を伝え、相互の発展のため和やかに交流した。



● 獨協Dマーク入りの ピンバッヂ・カフスリング制作

この度、同窓会オリジナルのピンバッヂとカフスリングを制作し、6月総会後の懇親会でご紹介いたします。デザインは、獨協カラーの群青色をベースに金色でDをあしらい、上品な仕上がりとなりました。



● 同窓生の新刊紹介 山口一彦著「風鳶」

山口一彦(昭和40年卒)さんから再び新刊をご寄贈いただきました。前回は、天才スピルバーグ作品の真実と魅力についての評論集「光と影」(独協通信87号19ページ参照)で、同窓会文庫に収蔵。今回は今年1月発行初版でタイトルは「風鳶」で(ふうえん)と読み、170句に及ぶ俳句集。そのオビには、「風鳶……扇が細糸で地上<現実>とつながっている危うさと自分自身を重ね合わせ、真摯な姿勢で紡いだ滋味掬すべき言葉の数々……」とある。開いて、序文の冒頭に、風鳶とは、普通に言えば「扇」のこと、俳句などでは、「いかのぼり」と使われる。この風鳶には、鳶という字が当てられているために、人間界という現実を大空(高處)から悠然と見下ろすという、いわば神にも似た視座が与えられているという点でその観察力にあやかりたいという筆者の願望を投影したものである。とあり、この書き出しに引き込まれていく。花の句が多い中から、「金木犀 散りて蒔絵となりし庭」、「月影に舞う白木蓮や夢のあと」二句を紹介。



お知らせ

1. 「第3回 私の趣味・逸品展」の出品作品の募集について

9月22日（土）、23日（日）の独協祭において同窓会では、昨年同様「私の趣味・逸品展」を開催します。会員の皆様から自慢の自作品を下記により募集しますので、奮ってご応募ください。スペースの制約上、掲出は先着20名様の作品に限らせて頂きます。（独協通信89号P.5～P.8ご参照）

記

出品ご希望の方には、「**出品要項・申込書**」を配布しますので、ご一読また、必要事項ご記入のうえ、お申込み下さい。出品作品の種類は、書、絵画、写真、版画、陶芸、標本、など自作品。併せて、作品制作に纏わる、動機や楽しかった事、苦労した処などの制作ヒストリーを400字程度にまとめご提出ください。当日、作品の傍らに**キャプション（作品解説）**として、設置いたします。出品作品を同窓会事務局への配送や、お持込の期限は**9月20日（水）**までとします。ご協力の程、宜しくお願ひします。

2. 「独協通信91号」（平成30年12月中旬発行）への原稿募集について

会員の皆様方から、独協通信へのご投稿をお待ちいたしております。

- 主な内容は、①「コラムドイツ」（ドイツ語圏での幅広い体験など）
②「クラス会だより」・「クラブOB会」・「職域・地域会」などの報告
③「獨協の思い出」、「獨協ぶらり旅」「私の近況」など。

原稿 締切日 **平成30年10月12日（木）**

原稿文章への加筆・修正、一部削除などご了承ください。

なお、締切日を過ぎた投稿分の掲載は次号になります。また、使用された文章・顔写真・集合写真などは同窓会HP（ホームページ）にも掲載されまますので、その点併せて、事前にご了承下さい。



お問い合わせ（郵送・配送先）同窓会事務局 担当 鈴木・筒井（毎週月曜日・木曜日 13:00～16:00）

住所 〒112-0014 文京区関口3-8-1 電話 03-3946-6352 メールアドレス：info@dokkyo-mejiro.com

獨協中学・高等学校PTAより「獨協祭・バザー用品ご寄付のお願い」

PTA会長 佐久間 寛道

昨年は、同窓生の皆様より獨協祭・バザーにご協力いただきまして誠に有り難うございました。おかげさまで多くの収益金をあげることができ、子供たちに還元することができました。この紙面をお借りして厚く御礼申し上げます。

さて、今年も9月22日（土）・9月23日（日）の日程にて、獨協祭が開催されます。PTAでは昨年に引き続き、同窓生の皆様に獨協祭に参加していただき、更にバザー用品のご寄付ならびにご提供もお願いしたいと考えております。バザーの収益金は、学友会への補助金として施設の改善、及びクラブ活動等の活性化に役立てられております。皆様には、後輩である在校生のために、お手元に眠っているお品物がございましたら、下記要領をご参考のうえ、ご提供下さいますようよろしくお願ひ申し上げます。

また、獨協祭ならびにバザーにも、ぜひ一度遊びにいらしてください。
在校生、PTA委員一同、心よりお待ちいたしております。



記

1. バザー用品受付期間とご提供の方法

- ・8月30日（木）～9月21日（金）
- ・宅急便にて下記迄お送りください。（元払いでお願い致します。）
〒112-0014 文京区関口3-8-1 TEL 03-3943-3651
獨協中学・高等学校「PTA厚生委員会」
- ・直接学校へご持参いただく場合は、主事室前廊下で受付しております。

*お問い合わせ先 事務・淀縄（よどなわ）まで（8月のロックアウト期間を除く）

2. ご提供品について

- ・新品もしくは未使用のものをお願い致します。
- ・会社名などが入っているもの、試供品・景品・粗品などはご遠慮ください。
- ・食品は賞味期限に余裕のあるもの、未開封のものをお願い致します。

協賛広告募集

同窓会では、諸経費の軽減と財務体質改善の一助として、総会でご承認頂いた「独協通信」紙面上の協賛有料スペースへの広告掲載を開始いたします。(下段参照) 会員の皆様から、個人名又は法人名での広告掲載を受け付けています。ご希望の方は、同窓会事務局にお問い合わせご相談ください。「広告掲載取扱い規定」により対応いたします。なお、次号掲載は、「独協通信」91号で、平成30年12月中旬発行を予定してい

ますので広告原稿・版下の入稿締切は、10月中旬となります。また、ご参考に、①発行部数約11,000部、年2回、5月・12月発行②掲載料金 大枠が4万円、小枠が2万円③通常5月号、12月号各1回のみの掲載ですが、同じ内容で年間2回連続掲載も可能ですのでご相談ください。④広告内容は、「独協同窓会」のホームページにも掲出されますので、紙面以上の効果も期待できます。

SASAKI LAW OFFICE 佐々木綜合法律事務所

東京都千代田区神田須田町1丁目26番 芝信神田ビル10階

TEL 03-3255-0091 FAX 03-3255-0094

相続・不動産・企業法務など
さまざまなお悩みを承っております。



観光産業ニュース「トラベルボイス」
50万人が読む読者数No.1の専門サイト
[トラベルボイス 検索](#)

トラベルボイス（株）代表取締役社長・鶴本浩司（JTB総合研究所の客員主任研究員やデジタルマーケティング会社「マーケティング・ボイス」の代表も務める）

ホテル椿山荘東京

お食事会、同窓会などのお集まりには
さながら森のような庭園に佇むホテル椿山荘東京を
どうぞご利用ください

お問い合わせ 03-3943-1171 (販売課 担当:林)

医療法人社団 野村会 昭和の杜病院

東京都昭島市宮沢町522-2

理事長 野村芳樹（昭和54年卒）

医療療養型 177床・透析ベッド30床
入院（一般内科・透析）・外来透析隨時ご相談ください

TEL 042-500-2611 FAX 042-500-2612

獨協同窓会 ドクターズクラブ

会長 伊藤公一（昭和51年卒）

～甲状腺を病む方々のために～



伊藤病院

院長 伊藤公一

TEL. 03-3402-7411 東京都渋谷区神宮前4-3-6 [www.ito-hospital.jp](#)



名古屋甲状腺診療所

TEL. 052-252-7305

名古屋市中区大須4-14-59

[www.kojin-kai.jp/nagoya/](#)



さっぽろ甲状腺診療所

TEL. 011-688-6440

札幌市中央区大通西15丁目1-10 ITOメディカルビル札幌5F

[www.kojin-kai.jp/sapporo/](#)

編 集 後 記

獨協創立135年目の今年、獨協同窓会 第10代会長が6月の総会で誕生する。昭和5年11月1日発足以来、88年目を迎える今年米寿である。6代目管野朗会長（昭和16年卒）によると、当時は、芝田村町の飛行会館の一室を借り、「独協クラブ」の会場としたのが、獨協同窓会と名のつくものの始まりとか。そして、初代会長は明治27年専修科卒の永井潜氏で、昭和9年9月に就任。4代目天野貞祐先生（明治39年卒）は昭和27年12月、校長就任時に会長に就任。その在任期間は昭和55年4月まで28年間、最も長い。その後、5代目鈴木浩氏、7代目宮田和夫氏、8代目鈴木莊太郎氏、9代目は現会長浅野一氏。そして新会長に引き継がれる。

「独協通信」もまた、「主幹 天野貞祐」の「巻頭言」、昭和34年11月3日付発行の第1巻第1号

から糸余曲折を経て、実に60年に及び、ここに90号に至った。あの、不幸な敗戦後の独協苦難の時代から立ち直るべく、幾多の独協人が母校復興のため学園発展のため個々の立場で力を尽くしてきた証を、この独協通信を通じて垣間見ることができる。その証は、正にリベラルな「独協ガイスト」を基礎とした「独自の人づくりと学びの姿勢」である。これからも、後輩諸君には、上品で「健全でバランスのとれた日常生活と学びの習慣」を身に就けてと望むばかり。

最後に、第1号巻頭言から天野先生のことば、「われわれはこの学園の雰囲気を吸って育ったことを忘れてはならないと思う。そうしてそのことを運命に感謝したいと思う。」小生も、感謝。新体制移行の中、ペンを置きます。
(克記)